

金玉山雙林寺もみじ一隅の会

もみじ通信

もみじの会が発足しました

9月15日、本堂において金玉山雙林寺もみじ一隅の会の発足式が執り行われました。

はじめに小寺会長からの挨拶がありました。悲慘なニュースの溢れている世の中ではあるものの、雙林寺での活動を通して少しずつ世の中を明るくしていこうというお話でした。

その後、世話人一同の紹介、参加者全員による般若心経の読誦があり、最後にご住職様からのご挨拶をいただいて発足式は幕を閉じました。

ご住職様の発案でもみじの会の発足が決まったの



挨拶をする小寺会長

は、今年の春のことです。それ以来、世話人とご住職様夫妻が何度も打合せを重ね、当会はようやく発足に漕ぎつけました。

会の名前が示すように、「一隅を照らす」が当会のキャッチコピーです。雙林寺の仏様に見守られながら、さまざまな活動を通して世の中を明るくしていきましょう。会員の皆様の積極的なご参加をお待ちしています。

会報第一号をお届けします

会報は春と秋の年2回、お届けする予定です。会報の編集は世話人の石本が担当しております。会の活動や日頃感じること、京都で注目のお店など、会員の皆様からの自由な投稿をお待ちしています。当会より、原稿の執筆をお願いすることもございますので、よろしく願いいたします。

原稿は次の宛先に電子メール、FAX、

郵便でお送りください。

〒605-0072
京都市東山区下河原鷺尾町527
雙林寺内 もみじの会事務局
FAX 075-561-5553
momiji-ichigu@sourinji.com



世話人挨拶

会の発足にあたり、世話人一同からの挨拶を掲載いたします。ご住職様からもメッセージをいただきました。

会長 小寺 利文

この度、ご住職様よりもみじの会会長を拝命致しました青湖で御座います。

思えば、ちょうど昨年9月、オフ会と云う事で初めてお寺の行事に参加させて頂いてから丁度1年。まさか？と云う思いがいまだにありますが、これも何かの御縁。精一杯、役目を果たしていきたいと思えます。遙か昔、1200年前、天台宗祖伝教大師さまが日本で初めて護摩を焚かれてから今日に至る迄、様々な方々の関わりがあって、今日の双林寺さんがあるのだと思えます。それをまた後の世に守り伝えていくの

も、現代に生きる我々の大切な役目かと考えます。

僕は、常々、仏様はいつも、いつまでも我々の来るのをお待ち下さってるのだと信じております。それは何年も何十年も何百年も昔から。

だから、今、こうして双林寺さんの仏様に巡り逢わせて頂けた事は本当に貴重であり、「仏縁」と云う表現でしか言い表せない事かと思えます。微力を尽くし、双林寺さんのご発展に寄与出来る様にと申す次第で御座います。



世話人 上原 ふじ子

この度事務局担当となりましたハンドルネームおふじこと上原ふじ子です。

思えば今年のまだ春浅い日にご住職様がポツ、と漏らされた一言、「何か楽しいことがしたい…双林寺のファンクラブがあればいいなあ」が全ての始まりでした。それは面白そうですね、是非やりましょうよ、と賛同したのがこの私、言いだしっぺとして何かお役目を、ということで、事務局の大任を頂戴致しました。このもみじ一隅の会の設

立と、それをお手伝いすることは必ずや双林寺の仏さまに喜んで頂けるに違いない、私にとって父母である仏さまに喜んで頂きたい、と思っております。ご住職様も「仏さまがお喜びになることをしていれば間違い無い」と常々仰っています。同じ信者の皆さんの喜びは仏さまへの一番の供養と信じております。皆さんに喜んで頂けるよう、頑張りたいと思っておりますので、宜しく願い致します。



世話人 石本 政人

もみじの会の世話人を務めさせていただいている石本です。私は関東在住なので双林寺にお参りする機会は多くはありません。でも、インターネットを活用して東京からもみじの会の運営に携わって参ります。皆様、よろしく願いいたします。

双林寺は祈る心さえあれば誰でも気軽に訪れることができるお寺です。大きな声で読経をし、行事の手伝いをし、そして語り合うことのできる参加型のお寺です。もみじの会の活動を通して、双林寺がこれまで以上に私達の心の拠り所になることを願っています。



世話人 野竿 陽子（雙林寺寺庭婦人）

この度、小寺会長をはじめ世話人の皆様、信者の皆様のおかげで「金玉山雙林寺もみじ一隅の会」が発足しました事、大変嬉しく思います。また、会計という会の皆様のお浄財を管理する大切なお役を頂戴し、仏様にお仕えできます事感謝しております。

イタリアの諺に、「片手では、拍手はできない」というのがあるそうです。この諺は、合掌にも同じことがいえるなあ…と思わせていただきましたが、住職一人では、拍手は

できません。仏様を愛する皆さんと手を合わせて、初めて拍手ができます。そして、より多くの方と手を合わす事ができれが、より大きな拍手をする事ができます。

より多くの方と共に手を合わせ、喜びと感謝の拍手ができますように、仏様に喜んでいただけますように願っております。また、微力ですが皆様に協力していただきながら、楽しい会となるよう私も努めたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

ご住職様

このたび小寺会長を代表とする「雙林寺もみじ一隅の会」が発足しましたことを、心よりうれしく思います。仏教では「仏・法・僧」という言葉があります。雙林寺には、およそ千二百年前から伝教大師さまの御作といわれ、国の重要文化財に指定されている御尊像である薬師如来さま、また、「すべての人々に悟りの世界を」とお釈迦さまが説かれた「妙法蓮華経」というすばらしい経典があります。しかし、「僧」がありません

でした。「僧」とは「僧伽(そうぎゃ)」の略で、仏教修行者の集まりです。つまりは、仏さまをおがむ人。この3つが一体となつて、仏さまのお力や、寺としての機能が働きはじめます。最新式のパソコンもたくさんソフトウェアがあっても、操作する人がいなくては機能しないのと同じことです。みなさんのお修行や活動によって、もみじの会の益々の発展を願って止みません。



もみじの会 年間行事

もみじの会では今後1年間、以下のとおり行事を予定しています。この他にも、研修旅行などを予定しております。ホームページや会報等で随時お知らせしますので、ぜひご参加ください。

- | | |
|---------------|--------------------------|
| ● 毎月第2土曜日午後3時 | ご奉仕の会 |
| ● 12月1日(土) | 大掃除(仏器磨き、本堂・境内の掃除など)、忘年会 |
| ● 5月 | 比叡山参拝 |
| ● 9月 | もみじの会総会 |

「仏器磨きの会」と「忘年会」のお知らせ

来る12月1日(土)、「仏器磨きの会」と「忘年会」を開催いたします。当日は定例の十一面観音護摩も厳修されますので、お参りかねがね、仏器磨きに挑戦してみたいはいかがでしょうか。

★仏器磨きの会 12月1日(土) 午後1時より

護摩壇などに並べられた各種の仏器を磨きます。参加される方は、

- ・軍手
- ・使い古しの布(ネルの布がお奨めです)

を持参の上、汚れてもいい服装で雙林寺本堂にご参集ください。参加申込は不要です。



★忘年会 12月1日(土) 午後6時より

会場 ト一 (<http://www18.ocn.ne.jp/~toichi/>)

京都市中京区富小路錦小路下ル西大文字町599 TEL075-223-0338

費用 5千円

申込 雙林寺ホームページからお申込みください。

電話(雙林寺 075-561-5553)、メール(momiji-ichigu@sourinji.com)でのお申込みも受付けております。

雙林寺の月例行事

雙林寺では毎月以下のような行事を執り行っています。

どなたでもご自由に参加することができます(参加申込は不要です)。

行事の時間に合わせて、お持ちであれば数珠を持参の上、本堂にご参集ください。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ● 1日 午前10時より | (歓喜天縁日)十一面観音護摩供 |
| ● 8日 午前10時より | (薬師如来縁日)薬師如来護摩供 |
| ● 24日 午前10時より | (地藏菩薩縁日)般若心経読誦 |
| ● 第2土曜日 午後5時より | 法華経読誦 |
| ● 第3日曜日 午前10時より | 十一面観音護摩護摩供 |

編集後記

会報第1号がようやく発行の運びとなりました。原稿を書いた皆様、ありがとうございました。今後はこの会報をご覧になっている皆様にもご協力をいただき、内容豊かな紙面作りを目指してまいります。皆様、よろしくお願いたします。

さて、私はしばらく前に引越しをしたばかりです。先日散歩の道すがら、近所に巖島神社を見つけました。境内には立派な池があり、社には弁天様が祀られています。先月のもみじ祭で楠木弁天様の開眼法要が執り行われたこと、荒尾努さんの平家琵琶演奏会があったことを思い出しました。巖島神社が平曲の舞台になっていましたね。不思議な縁を感じました。